

新製品・新技術開発助成事業集計表（例）

2018

項目	内容	回答	回答数
			H30年度確定企業
4(1)現在の企業化までに関する状況	あり	有	
(a)企業化の有無	なし	無	
(b)企業化の段階 (企業化ありを選択した場合のみ記入)	1 第1段階:製品が販売活動に関する宣伝等を行っている	1	
	2 第2段階:注文(契約)が取れている	2	
	3 第3段階:製品が1つ以上販売されている	3	
	4 第4段階:継続的に販売実績はあるが利益は上がっていない	4	
	5 第5段階:継続的に販売実績があり利益が上がっている	5	
(c)顧客数や引き合いの状況	1 増加している	1	
	2 変化はない	2	
	3 減少している	3	
(d)設備投資の有無	1 新たに行った	1	
	2 行う予定がある	2	
	3 予定はない	3	
(e)売上高の状況 (企業化3～5段階を選択した場合のみ記入)	1 増加している	1	
	2 変化はない	2	
	3 減少している	3	
	4 発生していない	4	
(f)売上高が増加しない原因 (eで3もしくは4を選択した場合のみ記入) ※複数選択可	1 顧客ニーズが変わってしまった	1	
	2 市場投入の時期・地域を見誤った	2	
	3 機能面で優位性を保てなかった	3	
	4 販売促進力が足りなかった	4	
	5 競合より価格が高かった	5	
	6 ブランド力が足りなかった	6	
	7 その他	7	
(g)中止・中断の理由 ※複数選択可 (企業化なしを選択した場合のみ記入)	1 品質上の差別化が図れなかった	1	
	2 開発資金が枯渇した	2	
	3 コスト競争力が発揮できなかった	3	
	4 機能面での優位性を見出せなかった	4	
	5 顧客ニーズの変化を見誤った	5	
	6 競合他社の精度・性能が上回った	6	
	7 製品・サービスが陳腐化した	7	
	8 その他	8	
(2)主な販売先 ※複数選択可 (販売している場合のみ記入)	1 対個人へ直接販売	1	
	2 対企業へ直接販売	2	
	3 卸売商等へ販売	3	
	4 教育・研究機関へ販売	4	
	5 行政機関へ販売	5	
	6 その他	6	
(3)①産業財産権の出願・取得	取得	取得	
	出願	出願	
(3)②譲渡及び実施権の設定	あり	有	
	なし	無	
(6)助成事業の波及効果 ※複数選択可	1 企業信用力の向上	1	
	2 企業認知度の向上	2	
	3 技術開発力の向上	3	
	4 事業推進力の向上	4	
	5 多角化の推進(新分野へ進出)	5	
	6 自社ブランドの確立	6	
	7 従業員の取組意欲の向上	7	
	8 社外ネットワークの構築・充実	8	
	9 その他	9	